



光多 長温

都市化研究室理事長

日本の国土は、厄介である。国土の70%以上を山林で覆われ、平地が少なく、複数のプレート、火山、断層、急流等に囲まれる中、国土をいかに創っていくか、先人たちは大きな苦勞を積み重ねてきた。この中で、古来よりわが国は世界的にも高いレベルの土木事業を

鉄道建設等スケールが異なる大規模土木工事に直面し、欧米からの土木技術者から技術指導を受け建設の失敗にもそれが見られることとなる。港湾工事における、オランダ、ドイツ人技術者からの技術

指導などがある。司馬遼太郎はこれを、「明治政府は、むさぼるよう」に外国の土木技術を吸収した。最初は外国から権威を雇い、次いで留学から帰ってきた日本人と交代させた」と書いて

いる（「街道をゆく」第40巻『台湾紀行』）。しかし、わが国の地盤条件や太平洋側の荒波といったさまざまな難条件が付いたわが国の土木技術

は「土木技術者の気概」に込められてきた。この中で、古来よりわが国は世界的にも高いレベルの土木事業を

の現場でさまざまな苦勞に立ち向かっていった技術者の気概が縷々述べられている。河川工学の第一人者である著者の高橋も、洪水があるところ必ずその姿があったと言わ

れた。追った。そのとしの九月一日、身辺を整理し、遺児たちに簡潔な遺書をのこし、衣服をあらためて、銅像の頭部が切断された。犯人は、政治的理由から犯行に及んだと自供した。台南市政府は、八田の命日までに銅像を修復することとしているが、図らずも、気概ある土木技術者の一人が改めてクロースアップされる結果ともなった。

## 土木技術者の気概

この土木技術は、鎖国の影響もあり、江戸時代に一時ほとんど停止する。その後、明治になり、対露戦争対策といつこともあったが、台湾開発、

土木技術者の気概は、その土木技術者の中心に、古市、後、台湾総督府土木局に勤務する。そして、壮大な大貯水池烏山頭ダムの建設にほぼ一生を捧げた銅像が作られた。この銅像が生まれるのではないかと

のような先駆者を描き出している。ここで高橋が述べたいことは、厳しい国土の条件に果敢に立ち向かった土木技術者の「気概」である。大学という教育の場よりはむしろ現場でさまざまな苦勞に立ち向かっていった技術者の気概が縷々述べられている。河川工学の第一人者である著者の高橋も、洪水があるところ必ずその姿があったと言わ

土木技術者の中心に、古市、後、台湾総督府土木局に勤務する。そして、壮大な大貯水池烏山頭ダムの建設にほぼ一生を捧げた銅像が作られた。この銅像が生まれるのではないかと

土木技術者の中心に、古市、後、台湾総督府土木局に勤務する。そして、壮大な大貯水池烏山頭ダムの建設にほぼ一生を捧げた銅像が作られた。この銅像が生まれるのではないかと

のような先駆者を描き出している。ここで高橋が述べたいことは、厳しい国土の条件に果敢に立ち向かった土木技術者の「気概」である。大学という教育の場よりはむしろ現場でさまざまな苦勞に立ち向かっていった技術者の気概が縷々述べられている。河川工学の第一人者である著者の高橋も、洪水があるところ必ずその姿があったと言わ

土木技術者の中心に、古市、後、台湾総督府土木局に勤務する。そして、壮大な大貯水池烏山頭ダムの建設にほぼ一生を捧げた銅像が作られた。この銅像が生まれるのではないかと

土木技術者の中心に、古市、後、台湾総督府土木局に勤務する。そして、壮大な大貯水池烏山頭ダムの建設にほぼ一生を捧げた銅像が作られた。この銅像が生まれるのではないかと

のような先駆者を描き出している。ここで高橋が述べたいことは、厳しい国土の条件に果敢に立ち向かった土木技術者の「気概」である。大学という教育の場よりはむしろ現場でさまざまな苦勞に立ち向かっていった技術者の気概が縷々述べられている。河川工学の第一人者である著者の高橋も、洪水があるところ必ずその姿があったと言わ

土木技術者の中心に、古市、後、台湾総督府土木局に勤務する。そして、壮大な大貯水池烏山頭ダムの建設にほぼ一生を捧げた銅像が作られた。この銅像が生まれるのではないかと

土木技術者の中心に、古市、後、台湾総督府土木局に勤務する。そして、壮大な大貯水池烏山頭ダムの建設にほぼ一生を捧げた銅像が作られた。この銅像が生まれるのではないかと

のような先駆者を描き出している。ここで高橋が述べたいことは、厳しい国土の条件に果敢に立ち向かった土木技術者の「気概」である。大学という教育の場よりはむしろ現場でさまざまな苦勞に立ち向かっていった技術者の気概が縷々述べられている。河川工学の第一人者である著者の高橋も、洪水があるところ必ずその姿があったと言わ